

共通教養科目について（2014年度入学者に適用）

本学の共通教養教育は、自立した良識ある市民としての判断力と実践的能力、国際的感性とコミュニケーション能力を有し、自ら成長することのできる人材を養成することを理念とし、その具現化をめざす以下の方針に基づいて教育課程を編成しています。

1. 学部・学科の枠組を越えた幅広い分野の共通する科目を履修することにより、神奈川大学の学生として身に付けるべき、広い視野と総合的な知性を涵養するための科目を配置しています。
2. 現代社会の諸課題や学際的分野等、時代の要請に応える内容を包括した科目を配置しています。
3. 学部・学科の専門教育と有機的に関連させるための科目を配置しています。
4. 大学生活に順応できるよう、全学必修科目として初年次導入教育科目「FYS（ファースト・イヤー・セミナー）」を配置しています。
5. グローバル社会において必要とされる外国語運用能力を身に付け、世界の多様性の認識や異文化理解を促進するため、英語に加えて、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、ロシア語を学べるよう科目を配置しています。
6. より高度な外国語運用能力を養成するため、各言語の基礎的な学力を身に付けている学生を対象に上級者向けの科目を配置しています。

湘南ひらつかキャンパスでは、理学部と経営学部の両学部の学生が学部の違いを超えて共通に学べる科目を設定しています。文系学部だから数学は苦手と諦めるのではなく、異なった分野の科目を履修して視野を広めてもらいたいと切に願っています。

理学部の学生でマネジメントやビジネスの基礎を学びたい学生は多いはずです。同様に経営学部の学生で数学や物理、あるいは情報科学などを学んでみたいと思う学生もいることと思います。将来の目標を見定めて、ぜひ異なる分野の科目に挑戦してみてください。特に理系の科目に関しては、担当教員が文系の学生にも分かりやすく授業を進めるので、積極的に受講しましょう。

特に経営学は欧米では数学的な発想が必要とされ、「統計学」など数学の知識を基盤にして学習する分野です。より論理的な思考で経営分析を行うためにも、数理の基礎をこの機会に学んでみてはどうでしょうか。というのも、大学の4年間でいかに多様な分野の学問を修めたかにより、その後の人生が大きく変わるかもしれないからです。

共通教養科目の中には「神奈川大学の歴史と建学の精神」や「日本の伝統文化と地域連携」、あるいは「海の体験学習」や「公衆衛生」といった特色ある科目が配置されています。科目の中には単なる座学ではなく、実技に重きを置いた科目も置かれていますので、希望する学生はぜひ受講して知的体験を深めてください。

国際経営学科の専攻科目は、卒業までに必ず履修する専門演習科目、エントリー科目と、選択して履修するショップ科目、オールマイティ科目、体験型学修科目、およびその他の選択プログラムによって構成されています。

共通教養科目は、1年次から4年次まで全年次を対象として開講されている科目です。下の図のようにいくつかの分野に分かれています。各分野には卒業までに修得しなければならない単位数（卒業要件単位数）が、また進級に必要な単位数が定められています。この単位数は、入学年度で異なりますので、必ず専攻科目のページに記載の「卒業要件」「進級要件」を確認してください。

共通教養科目									
共通基盤科目							共通テーマ科目		
F Y S (必修)	外国語科目 (必修)	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	基礎ゼミナール (必修)	生活と社会	生活と科学	自然と環境